市民句会報

令和三年四月二十八日　オーテピア高知図書館（高知市民図書館）　○印　味元昭次選　順不同

○たたかれて笑顔届ける紙風船
小手毬の花を重ねし石畳
刻印す蝶に出会へり土佐の里
郁子

○千代紙の風船一つ鈴二つ
○石地蔵蝶舞ひ来れば片目開け
大師杖鈴生りの批杷室戸崎
えり

○放たれて子も風船も行ったきり
蝶の昼マスク会食にも慣れて
蝶の昼将棋に興ず小半日
夕子

○佳き日娘へ姑から継いだ胡蝶帯
脳にワルツ蝶形骨の仕業かな
小鳥きて老樹指からジャズになる
万貴

○行く春や丁寧に書く願い事
棕櫚（しゅろ）の木も透き間に見えしかわひらこ
道草の子に明日からの新学期
さえ

○アネモネやあなたの通る昼下り
○夕風をうけて水田で揺れる山
田の畔に踏み拉（しだ）かれて蓮華草
志津子

初蝶は未だ目にせずマンションで
今一度突いてみたいと紙風船
舅が焼いた田んぼは今宅地
富子

球音の響く公園初蝶来
嫗らの風船ラリー誕生会
会いたいね約束できず春惜しむ
千代

金雀枝や鮮やかに咲き蝶の群れ
風船や色いろいろに空に浮き
千代紙で風船折れたと吾笑顔
文子

○虎杖を妣の残せし塩に漬く
目の前を横切る黄蝶死を急ぎ
薬売りの四角の風船すぐ破れ
文子

○パレットを踏んだ子猫や春の色
○風船のピンクにこだはる三才児
近付きて心の重く蝶の昼
農子

○千姫の小径お菊の井戸に蝶
風船で作る花・犬デイサービス
「うどん有ります」葉桜の地酒茶屋
初江

しじみ蝶足元まとい師（ちせい先生）の話
藤の棚母が笑った村芝居
店頭に風船が呼ぶスマホ塾
富江

○標本の蝶の虫ピン鳥雲に
○さみしさに紙風船を吹いてみる
○夭折は幾つまで言う柿若葉
弘

風船は宇宙に散りて門（かど）出かな
蝶生る「あおむしくん」と風を待つ
シーツ干す山に目を留む桐の花
丞子

味元　昭次　作品

風船と東京五輪の差を述べよ
聖火より確かな初蝶見送りぬ
風船や今夜もマツコ・デラックス

★次回市民句会
【開催日時】
令和三年五月二十六日（水）
午後一時一五分～午後四時（予定）
【場所】
オーテピア４階　研修室
どなたでも自由にご参加いただけます